

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891100113		
法人名	晋栄福祉会		
事業所名	グループホーム中山ちどり		
所在地	兵庫県東塚市桜台1-7-1		
自己評価作成日	平成28年3月7日	評価結果市町村受理日	2017年 3月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西		
所在地	兵庫県川西市中央町8-8-104		
訪問調査日	2016年 11月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の刺激のある生活の実践に向けて、月間予定表を作成し、計画的なレクリエーションを実施しています。また、グループホームとして、家庭的な雰囲気作りにも努め、日常生活の中の生活リハビリ、例えば、食事の際に使用するおしぼり作りや、お茶碗洗いなどをご利用者の方に日常的にさせていただいております。両ユニットの間にはテラスがあり、季節ごとの花々を楽しまれたり、中庭にてお茶などを楽しんで頂き、いつでも外の空気に触れられる開放的な空間作りにも努めております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

玄関を入ると、テーブルの上の季節に沿った花と置物が、来訪者の目を楽しませてくれる。広い中庭とウッドデッキを挟んで2つのユニットが配置され、利用者はリビングから庭の花々を眺めながら解放感を味わう事が出来る。利用者も一緒に作るタペストリーや中庭の装飾が季節感を演出し、職員の自宅や事業所の庭に咲いていた花が、センス良く花瓶に活けられている。文化的な雰囲気を漂わせる近隣の地区から、多彩なボランティアが訪問し、利用者にとって新しい馴染みが生まれている。法人が力を入れている認知症ケアの新しい手法を通して、職員は利用者と同じ目の位置で話し、優しく触れながらケアをする事の大切さを学んでいる。今後とも、高いレベルでのケアの標準化を目指される様、期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家庭的で安心安全に生活できるグループホーム作り」を理念として掲げグループホームとしての役割・意義などを職員に周知させております。事務所前の掲示板にて法人理念、事業所理念を掲示しております。毎月行っているスタッフ会議、ケアカンファレンスの中で、ご利用者の現在のADL等の確認や、介助方法の見直し、業務改善等を行っており、より安全でご利用者にとっても職員にとっても居心地の良いグループホームを目指しています。	年を経るとともに身体能力が低下する利用者に対して、安心して安全な住まいを提供すべく、職員一同で取り組んでいる。利用者との両方が安心・安全である様にと心掛け、ケアのばらつきを無くして質を高めるため、ケアのポイントをまとめている処である。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご利用者に以前暮らされていた地域のお祭りに参加していただいております。その他にも近所の幼稚園との交流会や、ボランティアの方を施設に招いての行事等にも参加いただいております。	利用者は地区の祭りに参加し、顔なじみとの会話が弾む。近隣から多彩なボランティアグループが定期的に訪れるので、盆踊りや演芸を楽しむ事が出来る。隣接した幼稚園から毎年多くの園児が来訪して、歌を唄って利用者や交歓する機会を作っている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方、ご利用者のご家族様にご参加頂き、認知症ケアについて事業所として取り組んでいる内容などを報告しております。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の自治会長や包括支援センターの方、ご利用者のご家族様からいただいた貴重なご意見は、スタッフ会議にて情報共有を行い、改善すべき点は改善にむけて動き、良い点については継続して行っているよう取り組んでいます。	運営推進会議は隔月に開催している。事業所からは利用者の状況、行事の開催結果や予定を報告している。家族へ議事録を送付する事を検討したことがあるが、内容を考慮し、玄関ホールに1枚の抄録を掲示する事に留めている。	玄関に掲示してある抄録に数行のコメントを追加した簡単な議事録や行事の予定を、請求書に同封して全家族に送付してはどうか。運営推進会議への家族の参加を促進する効果になると思われる。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	骨折等重大な事故が発生した際や、その他市町村へ報告すべきと判断された事故が発生した際は、速やかに行政に報告をさせて頂いており、市町村担当者が来訪された際には、サービスの状況を説明しております。	運営推進会議に地域包括が参加し、その機会に情報交換を行っている。市の担当部署との関係性は、事業所からの報告で赴くのが主である。法人が主催する行事に市からも参加があるが、事業所として関係性を深めるには至っていない。	市の担当部署との関係性を密にする為に、運営推進会議への出席を依頼されたらどうであろうか。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に身体拘束禁止の社内研修を毎年行っています。センサーマットについても毎月ケアカンファレンスの中で、使用時間について検討しています。またユニット間の往来も自由にさせていただき、自由に移動出来る様にしてあります。やむを得ず、抑制帯などの拘束をしているご利用者に関しては、毎月南館会議で取り上げ、抑制帯を外す方向に向けて、見直し話し合いを行っています。	身体拘束排除委員会が活動しており、安易な拘束を排除している。事故防止の為に車椅子で抑制帯を使用している利用者がある。ケアの方法を工夫することによって、3名の利用者からセンサーマットを外せた。	抑制帯やセンサーマットの使用が常態化しない様、継続した検討を望みたい。
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待に関する施設内研修を実施し、虐待防止委員主催の研修会に積極的に参加し虐待事例などを通して研鑽行っています。	研修を毎年行い、心理的虐待に通じる様な言葉掛けをしない様に周知しており、気付く都度注意をしている。スピーチロックにならない様、「済ませませんが、5分程待って下さいね」などと、利用者が不安と不満を感じない様にしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入職前の事前研修や毎年行っている全職員対象の施設内研修の中で権利擁護に関する研修を実施しています。	現在、制度を利用している例は無い。ネットからダウンロードした概要資料はファイルしているが、契約時に説明はしていない。制度に関する職員の知識レベルは高くは無い。	制度を分かり易く解説した資料を準備し、契約時の家族への説明や、職員研修の際の参考資料にされたらどうか。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や見学時にご家族・ご利用者の状況についてお話を伺いながら、サービスの内容や方針を伝えております。その中で、疑問や不安に思っていることとお聞きし、入居後のサービスに反映させる事や、介護の方針などについてもお伝えしております。	契約前の説明時に質問が多いホームでの生活の一日の流れと費用面について、丁寧に説明して納得を得ている。日帰りでのお試し利用を数回経験する事で、スムーズに入居した利用者の例もあり、今後は提案する際に事例として活用したいと考えている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やサービス担当者会議、日々の面会などご家族にお話させていただく機会を持ち、ご要望をお聞きしたり、現状の報告などを行っております。またご意見箱を設置しており、そちらでいただいたご意見も反映しています。	運営推進会議に毎回家族が4～5組参加するので、その機会や来訪の時に要望を聴いている。要望は、利用者個々に関するものが殆どである。毎年実施するサービス満足度調査によって、満足度の傾向とフリーコメントの記載から要望を把握して、反映に努めている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やカンファレンスにおいて意見や提案を聞く機会を持っています。また係長以上のものが参加する運営会議を月に1度開催しており、各部署の現状等を報告しています。南館運営会議では施設長、部長、課長も参加しています。	スタッフの全体会議やケアカンファレンスの中で意見を聞いている。拘束を排除する為のケアの方法や、車椅子からベッドへの移動時に、利用者や職員の双方の体力的な負担を軽減させる器具の採用など、ケアに反映させていることが多い。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の取り組みとして人事考課制度を採用し、年2回の自己評価や上司との意見のやりとりが出来る場を設けている。また労働時間・希望勤務や休みなど柔軟に対応し、就業しやすい状況を作るよう努力しております。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの新人職員に合わせた、新人職員育成シートを作成し、全職員で新人職員の指導・育成を行っています。また施設内での研修や、外部研修にも積極的に参加していただけるよう配慮しています。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人研究発表大会では他部署の取り組みと成果を知り意見交換している。運営推進会議において、地域の自治会長や包括支援センターの方にご参加頂き、サービスの内容など報告しております。参加している同業者と会議を通じて交流し質の向上に努めている。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	帰宅願望のある方には傾聴させて頂いたり、外に散歩に出かけたりとその方一人一人にあった対応、レクリエーションを行うことで職員との信頼関係を築いています。入居後ご利用者の様子を観察、また家族様のお話をお聞きする中で、本人様の望まれることを把握し日常のケアに反映させております。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、見学、入居当初、ご家族が不安に思っていることについては、時間をとり、お話させていただき、不安の解消に努めております。また、入所前にてお試しでのご利用についても相談の上実施させていただく場合もあります。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にご家族に記入いただいた、「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご本人の趣味・性格・習慣などについて」を参考にまたご家族やご利用者との話し合いや生活状態を観察する中で必要なサービスなどを見定めています。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者で家事の分担を図り、洗濯のたみや配膳、時には調理のお手伝いをさせていただいています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事ごとには、極力参加して頂けるようにご案内をするなど努めています。またご来訪された際にはご利用者ができることをお伝えしたり、問題に対して相談するなどの形をとり、共に解決していくようにしております。運営推進会議等でもご家族の不安や悩みについてもお聞かせ頂いています。外出や、食事介助等、積極的にご協力していただけたらご家族もおられます。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	その方が以前暮らされていた地域の祭りに参加していただいたり、地域の方を招いて施設全体で行われる行事の中で親睦を図る支援をしている。	家族の他に、足しげく訪問して来る知人も有り、リビングや法人内の喫茶室、屋上庭園などで一緒に過ごして貰う。家族からの電話や郵便物を職員が取次いでいる。定期的に訪問するボランティアは利用者の名前を覚えており、新しい馴染みの環境が出来ている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々のレクリエーション(カルタ取りやリハビリ体操)などを通して仲間意識を深めていけるような支援をしています。また食事、おやつ等では一緒に召し上がっていただき、レクリエーションでも無理強いのないよう、共に実施していただくようにしております。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ状況の把握に努め、特別養護老人ホーム・ケアハウス・ショートステイへのご利用を提案したりしております。また、特養・ケアハウスなどの相談員と日頃より密に連絡を取り合い、情報共有に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から積極的に入居者様とお話したり、コミュニケーションを取っていく中で、ニーズの把握に努めています。また時にはご家族様から情報を得ることもあります。	現在、コミュニケーションが困難な利用者はいない。歌や刺繍、カルタなどのレクリエーションを楽しんでいる時の表情から、利用者それぞれの得意なことを見つけて、話題作りの材料にしている。外出願望が強い利用者には、引率して近くのスーパーへ出掛けるなどで、気分転換を図っている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にその方の今までの生活習慣や趣味などをお聞きし、また入居前の面談や入居後のご利用者、ご家族とお話を通じてこれまでの生活、環境の把握に努めています。また必要時にはこれまでご利用されてきたサービスの関係者に状況をお聞きする事もあります。さらに入居時「一日の生活の様子について」「これまでの生活の様子について」「ご利用者の趣味・性格・習慣などについて」をご家族にご記入いただき、これまでの様子を把握するように努めています。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	健康チェック表を作成、使用しており、ご利用者の食事量、水分量、排泄の様子等の管理を行っています。またその日にあった出来事については申し送りシートに記入し、日誌にも反映させています。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各ご利用者のサービス担当者会議を半年に1回行っており、その都度介護計画の改善なっています。日頃の生活の中で課題が見つかった際はその都度職員で話し合い、よりよいケアを行っているよう日々努めています。	利用者毎に複数の主担当を決めているが、全職員が全ての利用者のケアが出来る様にしている。家族の来訪に合わせて半年毎に担当者会議を開き、主担当の他に必要に応じて看護師、管理栄養士、作業療法士が参加し、ケアマネが意見を集約して計画を作成している。モニタリングは、3ヶ月毎にケアマネが実施している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者の様子について、申し送りシートに様子を記入し、その内容を日誌のケア記録にも入力、記載しています。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の理髪希望や買い物、散歩の希望など、可能な範囲で実施できるよう、柔軟に職員の仕事内容を変更しております。また、南館全体の行事や、法人全体の行事に参加しています。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる演奏などの催しや、地域のグループホームに対してご理解を示して下さる飲食店を把握し、利用させていただいております。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	中山ちどりでは、施設内にある晋栄福祉会診療所があり、定期的な往診による状態把握が可能で緊急時については宝塚第一病院と協力病院の契約をしており、対応について協力いただいております。	これまでのかかりつけ医を優先しているが、現在はほとんどが、併設診療所の医師が主治医となっている。心療内科や歯科の受診は、希望により可能である。日々の受診は職員が付き添い、緊急時は往診が可能である。家族との服薬調整や体調把握のための相談に適時応えている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	いつもと違ったご利用者様の様子を見落とすことなく、数値的異常、又は体調不良・皮膚疾患などみられれば、同じ敷地内にある診療所に連絡し、すぐに診て頂けるように連携を図っています。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院として宝塚第一病院と契約しております。入院されたご利用者がおられる場合は病院SWや病棟看護師等と状態の確認をさせていただき、早期にまた適切な状態での退院が出来るように努めております。(宝塚第一病院以外の医療機関でも同様)	普段から利用者への丁寧な状態観察を行い、入院回避に努めている。職員は、看護師から症状別の対応方法等について学ぶとともに、日々の申し送り時に、状態把握をするための共有を図っている。入退院時は、医療関係者と診療所医師との密な連携が図られている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	全てのご利用者の方に意向確認書にて緊急時の対応について予めご家族のご意見を頂いている。必要な際には見取りを含め終末期のお世話の方法などご家族や看護師を交え相談し、意思や対応等の統一を図っております。またターミナルに際しての対応方法など必要な方へのケア内容、対処基準など、職員に周知させて頂いております。(看取りケア) また転倒などのリスクを踏まえ、今後重度化する可能性がある方のご家族には、日頃よりご様子をお話させていただくようにしております。	今年度、看取りの事例があった。契約時に、家族とは緊急時を含めた意向確認を行うとともに、状態変化に併せ、その都度意向は確認している。ターミナル時期に入ってから、適時、体位変換を行い、利用者が安楽に過ごせるよう配慮に努め、家族も一緒に過ごすことができた。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応、AEDの研修を受けております。敷地内に診療所を併設しており、夜間帯もオンコール体制による対応を行っております。また緊急時対応マニュアルも作成しており、事故等が起こった際落ち着いて対応できるようにしております。		
35	(17) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を実施し、避難誘導などの実地訓練をしております。また昨年は消防署や地域と共同で防災訓練を実施したこともあり、市内の福祉避難場所として指定を受けております。	施設合同による定期的な訓練を実施している。12月には、地域・行政との合同大規模訓練(夜間想定)を予定している。全館統一した職員研修として、毎回シュミレーションし、役割分担等の確認を行っている。事業所だけでなく法人内職員間での連携強化に努めている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)		○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃からご利用者のプライバシーの保護に努めています。もし間違った声掛けをしている職員をみかけた際は、その都度指導を行っています。	新人研修における接遇研修で、事例を交えロールプレイで、意識定着を図っている。申し送りや会議等でも必要に応じ取り上げ、職員へ注意喚起している。浴室ドアには暖簾をかけ、出入りの際の配慮に努めている。	
37			○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の希望を聞き、できるだけその希望に合った行事や外出レクに参加して頂けるよう配慮しています。		
38			○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様全員で何かをするのではなく、その方の好きなレクリエーションを無理強いのないように、少人数で行うようにしています。		
39			○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝のモーニングケア時に口腔ケア・洗顔・整髪・洋服選びをご利用者と一緒に行っています。又衣類を汚された場合などはすぐに着替えて頂くようにしています。		
40	(19)		○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにホワイトボードを設置しており、ご利用者に協力していただき、そこに食事のメニューを記入していただいています。	併設施設内の厨房から食事が届き、ご飯、汁物はこちらで盛り付ける。毎月、特別メニューの日が設定されており、普段にはない食事が味わえる。毎月調理の日として月3回ほど、献立作成からすべて手作りで、家族も参加して共に楽しむ。利用者個々の好みやペースを大事にしている。	
41			○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員食事を記録し、水分量の記録も実施しております。体重の増減に応じ、食事量の見直しや、歯科医師や栄養士の助言を取り入れたらしてあります。また嚥下状態に問題がある方にはトロミ剤・刻み食・ミキサー食などの食事形態を工夫し、召し上がっていただいています。栄養や食事量が少ない方には濃縮栄養剤を召し上がって頂くようにしております。また水分量の確保についてもお好きな物を召し上がって頂くことで水分の確保に努めております。		
42			○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には促しを行い、実施困難な方についてはポリデント等による消毒や歯科医師の指導のもと、口腔ケアを実施しております。スポンジブラシ、口腔ケア用品を使用し、快適に食事や会話ができるように、しております。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、ご利用者の排尿間隔を把握することで、適切な排泄が出来るよう支援しております。居室担当が中心となり、排泄パターンの把握や間隔を見定め、声かけやトイレ誘導を実施しております。	健康チェック表、水分量を通して、総合的に個々の習慣を把握している。利用者のその日の様子や体調から察し、声かけや誘導のタイミングを見計らっている。リハビリパンツや布パンツ、パットの容量等、毎月の会議で検討し、自立を促す適切な方法を選択している。夜間は、居室内のトイレへの動線を優先し、ベッド位置を調整している。	
44			○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をこまめに摂っていただいたり、レクリエーションを毎日実施していただくことや、また長期排便のない方には医師とも相談の上、必要に応じて下剤、座薬を服用していただくことで便秘の予防に取り組んでおります。		
45		(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2～3回入って頂いている。体調管理を行いご本人の希望に合せた温度にゆっくりと時間を気にせず入浴を楽しんでいただいています	基本、同性介助で行っている。利用者の希望や習慣を考慮して職員から声かけしている。時には、清拭やシャワー浴の場合もあり、柔軟に対応している。利用者の状態や体調に応じてリフト浴を活用し、利用者への負担軽減、安心できる介助に努めている。職員との会話も弾んでいる。	
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切に考え、眠れない方は温かい飲み物を飲んでいただいたり、隣に寄り添いお話を聞くことで不安を和らげたり等それぞれのご利用者が安心して休んでいただけるよう配慮しています。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の方の薬剤情報については、保管をし随時確認しております。副作用や目的を把握して対応しております。また薬の変更についてはご家族に報告させていただき、ご安心頂くよう配慮しております。また薬の変更があった際には様子を把握し、Drに必要に応じ報告しております。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りやおやつ作り、配膳、食器洗い、洗濯たたみなど好きなことを手伝っていただくようにサポートしています。またかるた取りや歌レクリエーション等、日常の中で楽しみをもっていただけるように工夫し、支援しています。		
49		(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くのスーパーでの買い物・中庭・屋上庭園などの散歩以外にも希望に添って図書館や園芸店または地域の祭りなどにも出かけられるように支援しています。	全館、冬季の間は外出を控えていることから、事業所内での余暇活動に力を入れている。リビングから出入りできる中庭や屋上庭園を散策したり、館内の喫茶に向くなど、できるだけ気分転換できるよう声かけしている。気候のいい時期は、地元の行事に参加したり、近隣の図書館に行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方のみお金を所持して頂き、外出の際は、自身のお金でお支払いしていただくようにしています。認知症により、ご自身での管理が難しい方については、グループホームによる一時的な立替により、購入していただいております		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は携帯電話を所持して頂き、いつでもご家族と連絡が取れるように支援しています。また、ご家族の声が聞きたいという希望があれば職員よりご家族に電話を掛けお話しして頂いたりもしています。また手紙が届いた際にはご利用者にお渡しさせて頂いております。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や中庭には季節の花が植えられ、四季の季節を感じて頂ける工夫をしています。室温管理はカーテン等での採光調整や、エアコンの温度調節をこまめに行い、快適に過ごしていただけるようにしています。また定期的な換気を実施し、空気の入替えを行う事で、感染症予防もしております。	年間通じて温度調整、換気には注意し、感染症対策に向けた環境整備に力を入れている。中庭だけでなく、リビングや玄関フロアには、季節の花や飾り付けがセンス良く飾られている。食卓テーブルの他、ソファや椅子が配置され、思い思いに過ごせる。大きな窓からは自然光が常に差し込み明るい。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席以外にもソファがあり、くつろいでテレビを観たり、足を伸ばしてリラックスして頂ける空間を設けています。また中庭にはベンチを設置し、気候のよい日は暖かい日差しの中、ご利用者同士でゆっくりお茶でものみながら会話を楽しんで頂いたり、廊下の応接セットでは新聞や雑誌を読まれたりする趣味の場の空間も設けています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのご家族にご協力いただき、昔ご利用者本人が使われていたタンスや、椅子等準備していただき、各居室に設置するようにしています。	トイレ、洗面を兼ねたミニキッチン、クローゼットが常設されている。使い慣れた家具やテーブル、椅子が持ち込まれ、手作り刺繍などの趣味の小物が所せましと飾られている。グリーンや季節の花も置かれており、利用者自身が手入れをしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室はリビングを中心に設置されており、リビングから居室までは手すりをつたって行ける様に導線を確保してあり各居室前にはご利用者が見えやすい位置に表札をつけお部屋に戸惑われないような工夫をしております。		

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容